



## 感性を磨く

校長 五十嵐 宰

「お席、いかがですか」

この言葉は、ある初老（しょろう：私くらいのお年寄り）の男性が電車の中で小学生の少女にかけてもらった言葉として、新聞の投稿欄に紹介されたものです。

この少女は、この男性が初老だったからか、きっと断りやすいように、「お席どうぞ」ではなく「いかがですか」という言葉を選んだのでしょうか。この少女の思いやり、この言葉を選んだステキな感性に感心しました。そして、自分を振り返って、はずかしくも思いました。

私が子どもの頃、買い物のお使いを頼まれて、八百屋さん、肉屋さん、パン屋さんなどの商店へよく行ったものです。商店に入るときに「ごめんください」、買い物が終わって商店から出るときに「ありがとうございました」と言っていたこ



とを思い出しました。ところが今はどうかというと、コンビニでの買い物でも「ありがとう」の一言すら言わずにレジを離れている自分に気づくことがあります。徒歩で通勤する道すがら、すれ違う地域の人・交通整理の人には「おはようございます」や「ありがとうございます」が言えないこともあります。まさに、感性が錆びついていると言えます。

「いそがしい」とグチばかりこぼしている自分。「あのがよくない」とうまくいかないことを何かのせいにして、不幸せの気持ちでいっぱいになっている自分。私を含めて人は時々こんな気持ちになることがあるのではないでしょうか。しかし、本当にそうなのかは振り返って見る必要があるでしょう。もしかすると、「ゆとりを感じる心」「幸せを感じる心」そのものが薄れてしまっているのかもしれません。

この少女のような「ステキな感性」を身につけていくことは、大人にもなかなかできるものではありません。そして、たとえ一度身につけたとしても、すぐにはがれてしまうこともあるようです。感性を磨くためには、自分なりの努力を続ける必要がありそうです。

これも「今までの当たり前を問い直す」ことから始められそうです。私の感性が錆ついたら、みんなで教えてください。磨き直します。

○花園小学校の児童のみなさんは、「おはようございます」「こんにちは」と私にあいさつをしてくれます。どの先生にも同じようにあいさつを心がけましょう。

○授業のはじめの「よろしくお願ひします」、終わりの「ありがとうございました」は花園小学校のいい習慣です。これからも続けていきましょう。